

2016年度4Q制定の説明資料

- 1) JT-H264.1 (JT-H264高度ビデオ符号化方式の適合性規定)
- 2) JT-H264.2 (JT-H264高度ビデオ符号化方式の参照ソフトウェア)
- 3) JT-H265.2 (JT-H265高効率ビデオ符号化方式の参照ソフトウェア)

メディア符号化専門委員会

JT-H264.1(第6版)

JT-H264高度ビデオ符号化方式の適合性規定

**CONFORMANCE SPECIFICATION FOR
H.264 ADVANCED VIDEO CODING**

メディア符号化専門委員会

JT-H264.1とは

・ビットストリーム及び復号器がJT-H264に規定される必須要件を満たすかどうかを検証するために設計された試験を規定する。

第6版の改定内容

・ITU-T H.264.1の第5版および第6版における改定内容を含む。下記プロフィールへの復号器の適合性を試験するための追補ビットストリーム群が追加された。

H.264.1 版数 (制定年月日)	復号器適合性試験に追加されたビットストリーム群のプロファイル	正式発行日	TTC簡略標準版数
第5版 (2014年10月14日)	<ul style="list-style-type: none"> ・マルチビューデプスハイプロファイル ・MFC (多重解像度フレーム互換) ハイプロファイル 	2015年4月23日	欠番
第6版 (2016年2月13日)	<ul style="list-style-type: none"> ・拡張マルチビューデプスハイプロファイル ・MFCデプスハイプロファイル 	2016年6月17日	第6版

ITU-T勧告との関連

RELATIONS WITH ITU-T RECOMMENDATION

- **本標準は、2016年2月にITU-T SG16により承認され出版されたITU-T勧告H.264.1 (02/2016)に準拠したものである。**
- **本標準は、具体的な規定内容は含んでおらず、規定はすべて準拠元であるITU-T勧告によっている。具体的な規定内容はITU-T勧告H.264.1 (02/2016)を参照する必要がある。**
 - **試験ビットストリーム群は、ITU-T勧告H.264.1の電子的付属資料としてITU-Tが配布する。**

ITU-T 新会期 (2017年-2020年) における動向

- **最初のSG16会合 (1月16日～1月27日) においてH.264.1の更なる改定議論は開始されていない。**
- **参照しているITU-T勧告H.264v12の改定が1月会合でconsentされており、既に制定済みのH.264v11で追加されたプロファイルと共に適合性試験のための追補ビットストリーム群が将来追加される可能性がある。**

JT-H264.2(第6版)

**JT-H264高度ビデオ符号化方式
の参照ソフトウェア**

**REFERENCE SOFTWARE FOR
H.264 ADVANCED VIDEO CODING**

メディア符号化専門委員会

JT-H264.2とは

・復号器のソフトウェアはJT-H264に適合するビットストリームをJT-H264で規定された復号処理に適合する方法で復号できる。符号器のソフトウェアはJT-H264に適合するビットストリームを生成できる。

第6版の改定内容

・ITU-T H.264.2の第5版および第6版における改定内容を含む。前に承認された版に関連する種々の軽微な改善とバグ修正、及び下記プロファイルへの対応が含まれる。

H.264.2 版数 (制定年月日)	新たに追加対応したプロファイル	正式発行日	TTC簡略 標準版数
第5版 (2015年2月20日)	<ul style="list-style-type: none"> ・MFCハイプロファイル ・マルチビューデプスハイプロファイル ・拡張マルチビューデプスハイプロファイル ・付属資料Aに規定されるプロファイルのバグ修正 	2015年6月18日	欠番
第6版 (2016年2月13日)	<ul style="list-style-type: none"> ・MFCデプスハイプロファイル 	2016年5月30日	第6版

ITU-T勧告との関連

RELATIONS WITH ITU-T RECOMMENDATION

・本標準は、2016年2月にITU-T SG16により承認され出版されたITU-T勧告H.264.2 (02/2016) に準拠したものである。

・本標準は、具体的な規定内容は含んでおらず、規定はすべて準拠元であるITU-T勧告によっている。具体的な規定内容はITU-T勧告H.264.2 (02/2016) を参照する必要がある。

- 参照ソフトウェアは、ITU-T勧告H.264.2の電子的付属資料としてITU-Tが配布する。
- 6種類の別々のソフトウェアパッケージを含んでいる。

ソフトウェアパッケージ	サポートプロファイル
JM software	Baseline/ Constrained Baseline/ Main/ Extended/ High/ High 10/ High 4:2:2/ High 4:4:4 Predictive/ High 10 Intra/ High 4:2:2 Intra/ High 4:4:4 Intra/ CAVLC 4:4:4 Intra/
JSVM software	Scalable Baseline/ Scalable High/ Scalable High Intra/
JMVC software	Multiview High/ Stereo High/
MFC software	MFC High/
MVCD 及び 3D-AVC software	Multiview Depth High/ Enhanced Multiview Depth High/
MFC D software	MFC Depth High/

ITU-T 新会期 (2017年-2020年) における動向

- **最初のSG16会合 (1月16日～1月27日) においてH.264.2の更なる改定議論は開始されていない。**
- **参照しているITU-T勧告H.264v12の改定が1月会合でconsentされており、既に制定済みのH.264v11で追加されたプロファイルの機能と共に参照ソフトウェアに将来追加される可能性がある。**

JT-H265.2(第1版)

**JT-H265高効率ビデオ符号化方式
の参照ソフトウェア**

**REFERENCE SOFTWARE FOR
H.265 HIGH EFFICIENCY VIDEO CODING**

メディア符号化専門委員会

JT-H265.2とは

・復号器のソフトウェアはJT-H265に適合するビットストリームをJT-H265で規定された復号処理に適合する方法で復号できる。符号器のソフトウェアはJT-H265に適合するビットストリームを生成できる。

第1版の改定内容

・ITU-T H.265.2の第1版制定内容を含む。

H.265.2 版数 (制定年月日)	サポートプロファイル	正式発行日	TTC簡略 標準版数
第1版 (2014年10月14日)	[HM software] パッケージ1種類を含む <ul style="list-style-type: none"> ・Main プロファイル ・Main 10 プロファイル ・Main Still Picture プロファイル 	2015年6月18日	第1版

ITU-T勧告との関連

RELATIONS WITH ITU-T RECOMMENDATION

・本標準は、2014年10月にITU-T SG16により承認され出版されたITU-T勧告H.265.2 (10/2014) に準拠したものである。

・本標準は、具体的な規定内容は含んでおらず、規定はすべて準拠元であるITU-T勧告によっている。具体的な規定内容はITU-T勧告H.265.2 (10/2014) を参照する必要がある。

- 参照ソフトウェアは、ITU-T勧告H.265.2の電子的付属資料としてITU-Tが配布する。

・前会期末の2016年12月22日に承認されたH.265.2v3 (12/2016) が2017年3月現在、発行準備中にある。(第3版の議論開始により、第2版の更新は行われなかった。)

H.265.2 版数 (制定年月日)	サポートプロファイル	正式発行日
第2版 (2016年2月13日)	未更新。(ITU-Tにおいて第1版と同一勧告と参照ソフトウェアが掲載)	2016年6月2日
第3版 (2016年12月22日)	4種類のパッケージを含む。 [HM software] (プロファイル追加) [SHM software] (スケーラブル関連のプロファイルサポート) [HTM software] (マルチビュー、3D関連のプロファイルサポート) [HM+SCC software] (スクリーンコンテンツ拡張のプロファイルサポート)	未発行 (準備中)

ITU-T 新会期 (2017年-2020年) における動向

- **新会期最初のSG16会合 (1月16日～1月27日) においてH.265.2の更なる改定議論は開始されていない。**
- **参照するITU-T勧告H.265v5の改定議論が10月のconsentを目指して1月会合で行われた。既に制定済みで正式発行前にあるH.265v4で追加されたプロファイルの機能と共に参照ソフトウェアに将来追加される可能性がある。**